

導水路事業の課題考える

木曽川水系 岐阜市で学習会



導水路事業の問題点を指摘する武藤仁さん
＝岐阜市八代、市北部コミュニティセンター

徳山ダム（揖斐川町）の水を木曽川と長良川に流す木曽川水系連絡導水路事業に関する学習会が、岐阜市八代の市北部コミュニティセンターで開かれ、約80人が事業の問題点を考えた。講師を務めた長良川市民学習会（同市）の武藤仁事務局長は、計画されている長良川の放水場所が鵜飼漁

の御料場や献上鮎の漁場に近いか、トンネル掘削に伴う同市の水道水源の地下水脈への影響を懸念した。地盤沈下が起きた瑞浪市のリニア中央新幹線工事などを受けて工法が変更されたが、「岐阜市の水道水源は導水路が通る高さ近く、新しい問題が起こるの

6/26 岐阜新聞

ではないか」と指摘した。学習会は市民団体「リニア・徳山ダム導水路を考える会」主催。導水路事業は2024年の国の事業継続発表を受け、環境影響評価（環境アセスメント）に準じた「環境レポート」の作成に向けた作業が進んでいる。水資源機構は36年度の完成を目指している。

（堀尚人）

徳山ダムいららない

岐阜 計画反対市民ら学習会

岐阜市で20日、「徳山ダム導水路計画」学習会が開催されました。「長良川に徳山ダムの水はいらない！」と計画反対を訴える市民らでつくる「長良川市民学習会」の富樫幸一、武藤仁の両氏が講師を務め、参加者は活発な質疑応答、意見交流を行いました。

富樫氏は水需要に対して、「水資源開発基本計画（木曽川水系）は既に期限切れ（2015年）なのに、改定しないままに事業の目的（渇水対策）の根拠とされている」と指摘。需要実績や供給施設などさまざまなデータを示して木曽川にも長良川にも徳山ダムの水は必要ないと説明しました。

武藤氏は導水路のイメージがもてるようにトンネルや立坑の構造、大まかに説明する富樫氏（正面右）と武藤氏（左）20日、岐阜市

参加者の質問に武藤氏は「県は中止を言える立場にはないが環境レポートに対して243項目の『意見』を出している。私たちも『説明して』と言い続けていこう」と話しました。主催した「リニア・徳山ダム導水路を考える会」の林磨利子さんは「地域住民の納得なしでは進められない事業。学習会继续して声を上げ続けましょう」と呼びかけました。

6/27 しんぶん赤旗